

授業科目	腫瘍専門外科医コース： 消化器がん演習		
区分・単位	演習 6単位（選択）	講義番号	
年次・期別	1, 2, 3年次	曜日・時限	
教室		電話番号	
担当教員	教授：島田光生、丹黒 章 講師：栗田信浩、西岡将規 助教：居村 暁、森根裕二		
一般目標	消化器がんにおける的確な診断および高度な治療が実施できる。また、消化器がんに関する英文論文を理解し、また作成することができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器がんの的確な診断が実施できる。 2. 消化器がんの手術療法が実施できる。 3. 消化器がんの薬物療法が実施できる。 4. 消化器がんの放射線療法が実施できる。 5. 消化器がんに関する最新の英文論文を理解することができる。 6. 消化器がんに関する研究を英語で発表することができる。 7. 消化器がんに関する英文論文を作成することができる。 		

<p>概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当症例において消化器がん（食道、胃、大腸、肝胆膵がん）の診断を行う。 2. 担当症例において消化器がん（食道、胃、大腸、肝胆膵がん）の手術療法（開腹手術、低侵襲手術）を指導医とともに実施する。 3. 担当症例において消化器がん（食道、胃、大腸、肝胆膵がん）の薬物療法を実施する。 4. 担当症例において消化器がん（食道、胃、大腸、肝胆膵がん）の放射線療法を実施する。 5. 担当症例において消化器がん（食道、胃、大腸、肝胆膵がん）の緩和療法（緩和手術を含む）を実施する。 6. がん患者、家族に対して手術、薬物、放射線、緩和療法に関する必要性、治療計画、合併症、副作用について説明する<u>コミュニケーションスキルトレーニング</u>を実施する。 7. 多数の消化器がんに関する最新の英文論文を読みその内容を理解する。理解した内容をまとめレポートにして提出する。 8. カンファレンスあるいは<u>国内外の学会において消化器がんに関する研究を英語で発表する</u>。 9. 消化器がんに関する英文論文を作成し、<u>査読のある英文雑誌に投稿する</u>。
<p>テキスト・参考書等</p>	<p>胃癌、食道癌、大腸癌、治療ガイドライン（日本胃癌、食道癌、大腸癌学会編）、胃がん、大腸がん標準化学療法の実際（金原出版）、標準手術手技アトラス（へるす出版）等</p>
<p>成績評価基準 成績評価方法</p>	<p>担当症例つき症例レポートを提出し、評価する。</p>
<p>研究活動との 関連</p>	